

志賀の里に思いを馳せながら

平成 27・11・1

大阪生まれだが菩提寺があり、子供のころよく過ごした彦根に、この頃特に故郷感が強い。その『故郷・古里(ふるさと)』から言葉を繋げると先ず『志賀の里』が浮かんだ。何故か『滋賀の里』ではなかった。更に、近江は「近江の国・近江牛」、江州は「江州音頭・江州米(今は近江米)」等が、落ち着きが良い。ところで県名はなぜ志賀でなく滋賀になったのか。

これは、滋賀出身の方はよく御存知だと思うが、滋賀郡大津町に諸藩の合併後の役所あったからというのが通説だろうか。志賀も滋賀も後ろは同じ文字「賀」・・・加賀、敦賀、甲賀、伊賀、佐賀・・・奈良時代に地名はめでたい二文字にするように令が出たという。そして志賀高原との関係は、などなど考えると面白い。恐らくは多くの方が、楽しく、難しく解明されていることと思うが。志賀高原というと安曇野が浮かび、近江の志賀と安曇川とは関連があるのか。はて？ 思いは金印で有名な志賀島は？と繋がった・・・(昔、勤務した福岡(博多)が懐かしい。)ここで調べるとなんと志賀島は安曇族が居た地域で安曇族が全国に移り住んだという。志賀と安曇は大いに関係ありか、さて？

話は少し変わるが、近江というと遠江。しかし近江は古来、淡海(あわうみ)が本来で、近江の文字は遠江(遠津淡海=とおつあわうみ)との対比でつけられたらしい。当然、本家はわが近江！

やはり、歴史のある地域は、面白い。

これも、県人会に入会させてもらったからの思いであろう。今年の近江商人の足跡を辿ったツアーは、思い一入であった。子供のころ、思い切り遊んだ彦根の家があった近くをバスが走った時は、涙ものであった。次は、いつ来れるか。年一回の墓参りは続けたい。

とりわけ、毎日、老人保健施設や特別養護老人ホームを仕事で回っていると、何時までという思いに駆られる。施設では多くの認知症の方々を見かける。最近の施設は本当に手厚い介護をしておられるが、皆さんにも故郷があろう。幼い日を過ごした土地を思い出されることであろう。恐らくは、滅多に帰れなくなっておられることだろう。帰郷を実現するにも、先ずは健康が第一、そう思うと、一層、衛生・安全・安心・健康面でのお役に立ちたいと思う。いつ自分もお世話になるのか・・・卒寿まで仕事が続けられることを念じながら過ごす毎日だが、昨日も重要なスケジュールを間違った・・・あー！

アルツハイマーで話題のココナッツオイルを勧めながら自ら試す日々。

一方、県人会の皆さんはお元気なのがなにより。認知症予防には交流・会話が大切と聴く。又、探花会に代表される学びながら、語りながらのウォーキングが大いに予防になるとのこと。仕事との遣り繰りをつけながら出来るだけ多くの集いへの参加に努めたい。

日時、会場を間違えないようにチェックを徹底して！

古澤 昌弘(戸田市在住)